



| | |
|------------------|---|
| Title | 北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター 第41号 |
| Citation | https://doi.org/10.24484/sitereports.122108 |
| Issue Date | 2022-03 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/85030 |
| Type | bulletin |
| File Information | newsletter_41.pdf |



[Instructions for use](#)

北海道大学 Hokkaido University
Archaeological Research Center News Letter

埋蔵文化財調査センター ニュースレター

■ 特集 磯集中

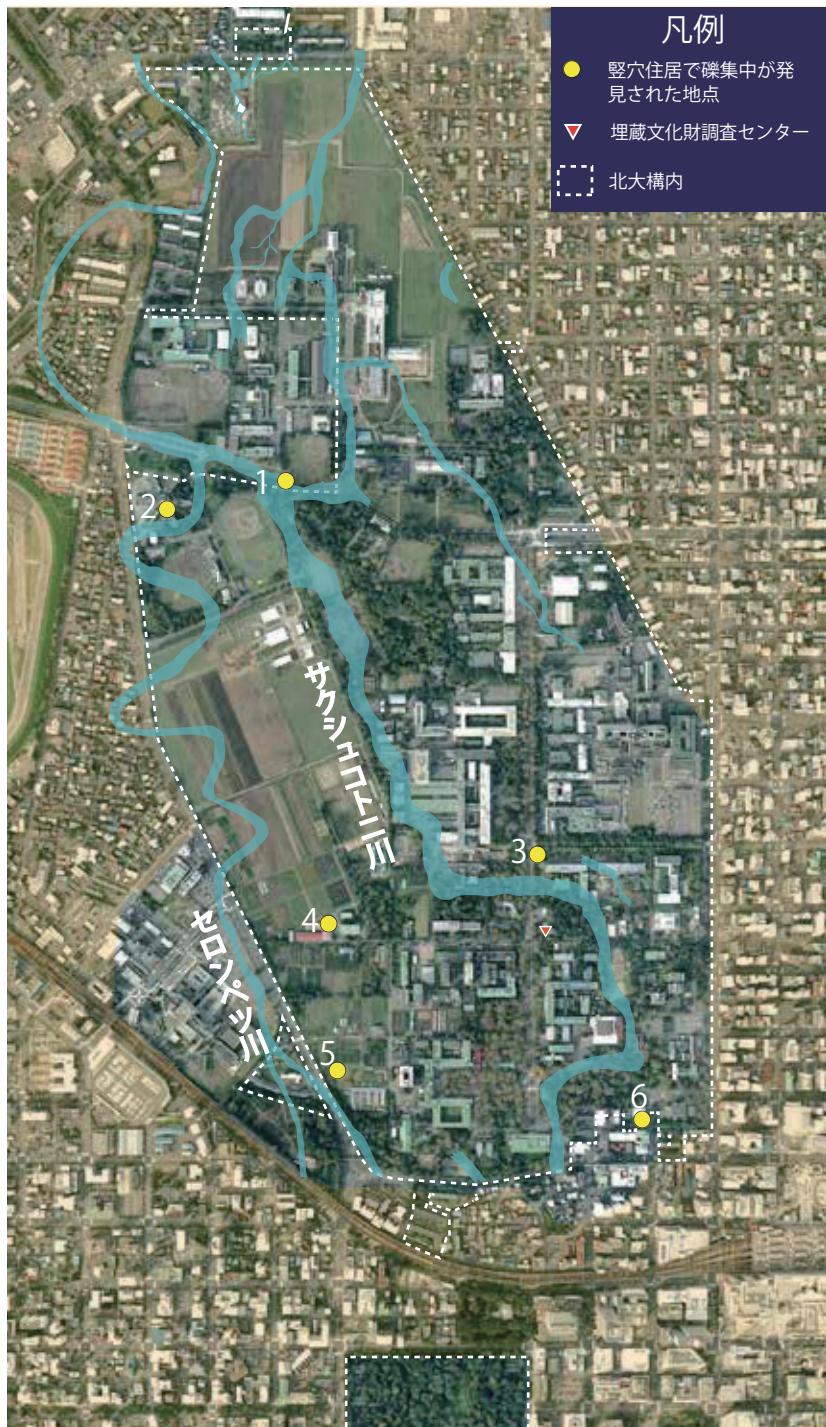
竪穴住居址では、その内部に土坑、柱穴、炉址などの遺構のほかに、床面に潰れた土器や複数の礫が集中した状態で発見されます。後者を「礫集中」と呼称します。遺構、廃棄状態がどのように床面に残されたかを精査することによって、当時の生活の一端を解明することができます。

擦文期では、竪穴住居址床面で発見される礫集中がどのように形成されたのか、また本来の機能は何だったのかについては、未だよくわかつていません。

本特集では、これまでに北大構内の竪穴住居址で発見された礫集中を集成し、各々の礫の大きさ・重量、確認位置を紹介することによって、その機能が何であったのかを考えてみます。



竪穴住居址で発見された礫集中



▲農学部実験実習棟地点第2号竪穴住居址
(HP02)で確認された礫集中（擦文後期）



▲応用電気研究所前地点の竪穴住居址で確認された
礫集中（擦文後期）



▲職員厚生施設地点の竪穴住居址で確認された
礫集中（擦文後期）

| 番号 | 地点名 | 時期 | 出土遺構 | 確認数 | 確認位置 | 出土礫数 | 報告書名 | 備考 |
|----|------------------------------|----|-----------------|-------|------|------|------|--|
| 1 | K39遺跡 エルムトンネル地点 | a | 擦文後期 (約12世紀) | HP48 | 1基 | 北西壁 | 142点 | K39遺跡第6次調査 2001 札幌市教育委員会 5a層 |
| | | b | 擦文中期 (約11世紀) | HP04 | 2基 | 南東隅 | 40点 | K39遺跡第6次調査 2001 札幌市教育委員会 6a層：第6号礫群と呼称 |
| | | c | | | | 南隅 | 21点 | K39遺跡第6次調査 2001 札幌市教育委員会 6a層：第5号礫群と呼称 |
| | | d | 擦文中期 (約11世紀) | HP08 | 1基 | 中央 | 29点 | K39遺跡第6次調査 2001 札幌市教育委員会 6a層：第4号礫群と呼称 |
| | | e | 擦文中期 (約11世紀) | HP12 | 1基 | 西隅 | 121点 | K39遺跡第6次調査 2001 札幌市教育委員会 6a層：第1号礫群と呼称 |
| | | f | 擦文中期 (約11世紀) | HP13 | 1基 | 東隅 | 130点 | K39遺跡第6次調査 2001 札幌市教育委員会 6a層：第3号礫群と呼称 |
| | | g | 擦文中期 (約11世紀) | HP23 | 1基 | 北壁 | 132点 | K39遺跡第6次調査 2001 札幌市教育委員会 6a層：第9号礫群と呼称 |
| | | h | 擦文中期 (約11世紀) | HP24 | 1基 | 東隅 | 37点 | K39遺跡第6次調査 2001 札幌市教育委員会 6a層：第13号礫群と呼称 |
| 2 | K39遺跡 恵迪寮地点 | | 擦文中期 (約10世紀) | HP02 | 1基 | 西壁際 | 10点 | サクシュコトニ川遺跡 1986 北海道大学 |
| 3 | K39遺跡 応用電気研究所前地点 | | 擦文後期 (約12世紀) | 竪穴住居址 | 1基 | 南壁際 | 30点 | 北大構内の遺跡1 1981 北海道大学埋蔵文化財調査室 |
| 4 | K39遺跡北方生物園フィールド科学センター実験実習棟地点 | | 擦文中期 (約10世紀) | 竪穴住居址 | 1基 | 北東隅 | 48点 | 2021年度発掘調査実施。報告書作成中。 |
| 5 | K39遺跡 農学部実験実習棟地点 | a | 擦文後期 (約12世紀) | HP02 | 2基 | 南西壁際 | 11点 | 北大構内の遺跡22 2016 北海道大学埋蔵文化財調査センター |
| | | b | | | | 南西隅 | 41点 | |
| 6 | K39遺跡 職員厚生施設地点 | | 擦文後期 (約12世紀) | 竪穴住居址 | 1基 | 南東壁際 | 68点 | 北大構内の遺跡7 1991 北海道大学埋蔵文化財調査室 |

■ 磯集中とは

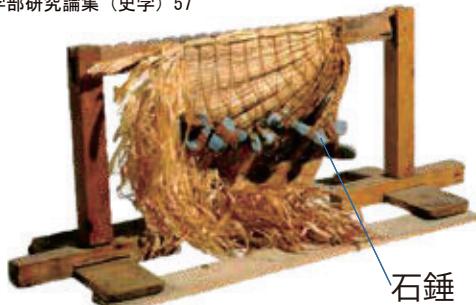
磯集中とは、約10点～約130点の小石が堅穴住居址の床面の一定の範囲内にまとまった状態で出土したものです。織具の錘として用いられた磯との見解がある一方、漁具の網の錘として利用された磯であるとする見解もあります。どちらの場合も、小石(磯)の一つ一つを「石錘(せきすい)」と呼びます。

織物用の石錘は、敷物などを編む際に、緯材に絡める経材(紐)に吊るして用いられます(下の写真)。民具例では、織布には100g以下の細長い磯が用いられ、すぐれ・むしろには約80g～約300gの磯が織具で用いられています(渡辺1981)。漁具としての刺し網・投網では、約10g～約30gの石錘が網の縁に取り付けられていた民具例(石川県)が知られています(山本2011)。

民具の援用が正しいならば、両者の間には重量の点で明確な差があるようです。

渡辺誠 1981 編物用錘具としての自然石の研究 名古屋大学文学部研究論集(史学)27

山本直人 2011 繩文時代の打欠石錘の用途に関する一考察名古屋大学文部研究論集(史学)57



▲織具(20世紀:北海道の民具)

北海道開拓記念館「北海道の基層文化をさぐる」2003年刊行から引用

■ 磯集中が発見される位置

堅穴住居址内では、磯集中が床面上の偏った位置で発見されています。構内で確認された14例の磯集中の内、カマドとの位置関係が推測できた磯集中を10例取り上げた結果、カマドが附設された壁と反対側に遺棄される傾向をとらえました。



▲堅穴住居の床面で磯集中が確認された位置

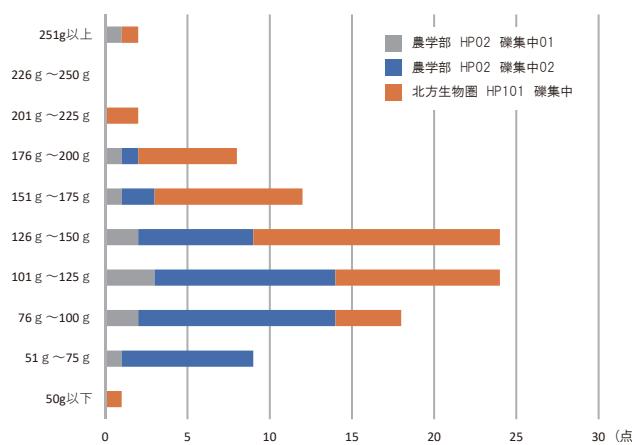
(黒丸内の番号は2頁の表に記した番号と対応する)

■ 磯の重量と大きさ

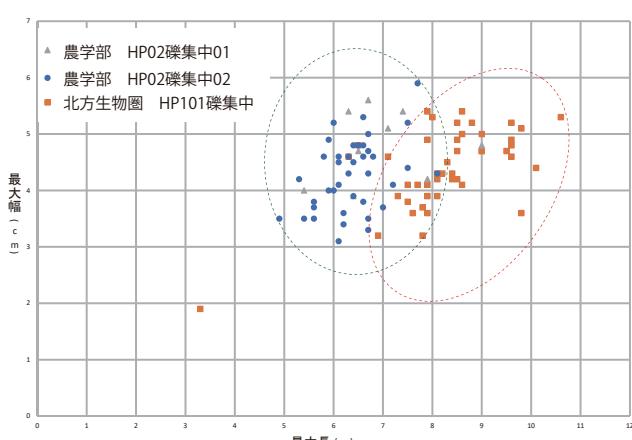
構内の堅穴住居址で発見された磯集中の内、2地点計3基の磯集中を取り上げ、重量と大きさを比較しました(下記に示したグラフを参照)。

2遺跡3基の磯では、120g～150gまでの重さの磯が多数である一方、重量の偏りに若干の違いがみられます。北方生物圏フィールド科学センター実験実習棟地点の磯集中(擦文中期:約10世紀)では、125g～150gの磯および151g以上の磯の点数は多い傾向があります。農学部実験実習棟地点で発見された磯集中2基(擦文後期:約12世紀)では、100g以下の磯が多数のようです。

各地点の磯集中で発見された磯の大きさを比較した結果、概ね類似した規模であるとわかりました。下段右の散布図に示したとおり、各地点での最大幅はほぼ同じ規模です。ただし、最大長は地点ごとに異なっています。



▲各地点で発見された磯の重量



▲各地点で発見された磯の大きさ

■ 錘(すい)と呼ばれていた武器

「かねへん」(金)に「たれる」(垂)で、「スイ・おもり」です。「紡錘」とは「つむぐ」(紡ぐ)ための「おもり」(重り・錘)、「おもり」を用いて「つむぐ」という意味になります。

さて、古代中国の歴史書「史記」、「漢書」では、「錘」と呼ばれた武器が登場します。錘とは、柄の先端に鉄球を取り付けた打撃具です(右写真矢印)。鉄鎧の上から打撃を加えて、致命傷を与える武器であった反面、重量のために持ち運びが不便であったようです。

早くも紀元前には武器として登場した錘は、宋代、元代にも活発に用いられ、その様子は「東方見聞録」で紹介されています。

戦争武器の多様性とともに、ものの自重を活用した道具が古から用いられていたと分かります。

骨朵(錘の一種)を右腕で持つ人物
林伯原 中国武術史 2015年の巻頭写真から引用、加筆



■ 2021年度北方生物圏フィールド科学センター実験実習棟地点の整理作業【速報】

北方生物圏フィールド科学センター実験実習棟地点の発掘調査の後、整理作業を2021年10月から現在までおこなっています。昨年の調査によって出土した遺物の洗浄、注記をするとともに、破片となった土器片を接合して形態を復原する作業、実測図作成をおこなっています。来年度、発掘調査報告書を刊行する予定です。



▲作業の様子

編集後記

擦文期の竪穴住居址で発見される礫集中を集成することで、その機能を推測しました。礫集中の機能を特定することには課題があります。

今後の発掘調査では、織具の錘と考えられる石錘の発見状態に注目して、精査を進めたいと考えます。(守屋)

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター第41号

発行：北海道大学埋蔵文化財調査センター
〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目

電話：011-706-2671 FAX：011-706-2094

e-mail: hokudaimabun@gmail.com

URL : <http://maibun.facility.hokudai.ac.jp/>